



失敗の本質 (敗戦の原因の理論化)

10月①のごあいさつ
山内公認会計士事務所
2020年10月1日(木)

第二次世界大戦で日本が負けた原因は何であったのか。

「失敗の本質」(1984.5 ダイヤモンド社刊 野中郁次郎外著)を読ませていただいているが、それは、**負けた要因の理論化**であり、**過去の成功体験への根拠のない依存への反省**であった。日本陸軍は、**奇襲と白兵戦**による銃剣第一主義(米軍は火力重視の合理的な戦い)。海軍は、戦艦大和に代表される**大艦巨砲主義**(米軍は空母と航空機による機動戦)。米軍に対して**精神主義**で豊富な物量への**挑戦**であり、既存の知識と新しい考え方との対決であった。

大戦の始まる前に起きた**ノモンハン事件**(1939.5~9)は、日本の関東軍とソ連・モンゴル軍の交戦であり、**日本軍は大敗**した。第一次大戦における本格的近代戦の体験を持たない日本軍は、**物量戦の意味**を理解していなかった。

関東軍の攻撃は、火砲と弾薬の不足に苦しみ、目標の的確な把握の欠如であった。結局、攻撃部隊は**ソ連軍師団の大兵力による猛射**をあび、**第23師団は壊滅の大敗**を喫し、多数の第一戦部隊の連隊長クラスが**戦死**、または**自決**した。日本軍は**生残ることを怯懦**とみなし、**高価な体験**をその後生かせなかった。

日本軍を圧倒したソ連司令官**ジューコフ元師**は、スターリンの問に対して、日本軍の下士官兵は**勇敢**、青年将校は**狂信的な頑強さ**で戦う、しかし、**高級将校は無能**であると評した。

連戦連勝していた海軍が**初の敗北**を喫したのは**ミッドウェー海戦**(1942.6)であり、以後海軍は勝てなくなった。

日米を比較すると、**真珠湾攻撃の後**戦艦、空母等で**優位**にあった日本海軍は、この海戦において、**連合艦隊司令官(戦略)**、**作戦計画の遂行レベル(戦術)**の用兵レベルにおいて米海軍に劣り戦果をあげられなかった。

ガダルカナル作戦(1942.8~1943.2)は、開戦後初めての陸軍の敗戦であり、**陸戦のターニングポイント**となった。この敗戦も日本軍の**戦略的グランドデザイン**の欠如が目立った。

作戦司令部では、**兵站無視**、**情報力軽視**、**科学的思考軽視**の風潮があり、第一線からの個人の経験が**戦略、戦術の反省**と**戦略、戦術の再構築**に帰納的に反映されるシステムが欠落していた。

インパール作戦は、不成功の場合の作戦を欠いた成算なき**鶴越戦法**であり**源義経**も実行しなかったであろう。その後、**沖縄戦**、**レイテ沖海戦**を経て日本は無条件降伏となった。